

パブリック・サービス研究分科会 図書館評価グループ研究活動報告

研究年月日：4月16日 12時10分～13時10分

場 所：国土館大学附属図書館中央図書館 4階 AV ホール

出席者：二塚（国立音楽大学）、千家（國學院大學）、藤原（駒澤大学）
清水（相模女子大学）、東家（上智大学）、吉野（女子栄養大学）
成田（大東文化大学）、小松（東京家政学院大学）、椎名（明治学院大学）
今井（文化女子大学）、辻本（立教大学）、田辺（国土館大学）

欠席者：阿部（清泉女子大学）

記録：田辺（国土館大学）

討議内容：

1. グループの統合について

「学生対応・利用者サービス」グループ内で、「図書館評価」グループと統合し、共同してグループ研究を進めるのが良いのではないかという意見があることを受け、「図書館評価」グループとして、どう対応すべきか話し合った。

その結果、「学生対応・利用者サービス」グループより正式な申出があれば、共に研究を進めることで意見が一致した。

2. グループ研究の進め方について

過去4回のグループ研究活動において、メンバー各自が図書館評価について考え、意見交換等行ってきたが、ここへきて活動に行き詰まった感がある。あらためて、グループ研究をすすめるためにどうすべきか話し合いを行った。

話し合いをする中で、次のような意見が出された。

- ・グループが統合すれば、「自己点検・評価手法ガイドライン」の9項目すべてできるのではないか。
- ・項目を絞り込んで評価すべきだ。
- ・各大学で興味のある項目を提案してもらい、優先順位を付ける。
- ・元のグループ研究のテーマを含む項目を評価する。
- ・元のグループは関係なく、個別に興味をもった項目を評価すべき。
- ・図書館評価という大きなテーマのもとに、あらためてグループを再編する。
- ・グループを再編しただけでは、また同じ事の繰り返しになってしまう。グループ再編後の進め方も検討すべき。
- ・評価手法によってわけても良いのでは。

意見交換をする中で、あらためて最終目標について、メンバー間で確認を行った結果、目標は「評価項目をつくること」と決定し、評価項目をつくりにあたり、項目は絞り込んだ方がよいという意見でまとまった。

評価項目を絞り込むにあたり、今現在担当している項目を実際に検討してみた感想を、メンバー各自が述べた。その結果、「自己点検・評価手法ガイドライン」の9項目について、評価したい項目、評価が難しい項目など、次のように意見が出された。

- | | |
|------------|--|
| 1.教育支援 | 評価したい。 |
| 2.図書館の公開 | 公開よりも学生についての検討が先ではないか。 |
| 3.利用者教育 | 「学生対応・利用者サービス」グループが担当か。 |
| 4.レファレンス | 数値で表すのは難しいが、図書館にとっては重要な業務。 |
| 5.電子情報サービス | ガイドラインが古いので、時代に合わない。「8.OPAC」と合わせて項目づくりができるのでは。 |
| 6.館内利用・貸出 | 評価したい。 |
| 7.アクセシビリティ | 素材を集めるのが大変。 |
| 8.O P A C | OPAC 単独の評価項目ではもったいない。「5.電子情報サービス」と併せて検討すべき |
| 9.図書館相互協力 | コンソーシアムを構築していない図書館では評価が不可能。 |

以上のガイドラインの項目について、これ以上絞り込むことはせず、「学生対応・利用者サービス」グループの統合を待って、グループ研究を進めることとなった。